



こころの「？」をときほぐします

カウンセリング・ルームから

第10回 「子どもが家のお金を盗っているようなんです」



最近、うちの子（Y夫・小学5年）が家のお金を盗っているようなんです。現場に居合わせたわけではないのですが、家計用の財布から3千円〜1万円の単位でお金がなくなっています。留守の間にY夫の部屋を探してみると、見たことのないゲームソフトが押入れの中にかくさん隠してありました。聞いただしてみても「友達から借りた」というばかりです。今後どのように接していいかわからないので、どうしたらいいのでしょうか？

先生のカウンセリング

本心に言いたいこと

本心に欲しいもの

このような相談は小学生高学年から中学生低学年の子どもの目立つようです。限られた年齢に起こりやすいということは、子どもの精神的な発達と「家のお金を盗る」という行為とに何らかの関係があるということです。

子どもが家のお金を盗る理由は大雑把に次の3つに分類できます。

- ①遊ぶお金が欲しい
- ②親に対する反抗
- ③家族の一員であることの間違った自覚と確認



丸山 明先生

1968年生まれ、臨床心理士。近畿大学附属小学校・中学校・高等学校カウンセラー。近畿大学附属病院心理士。共著に『季刊 精神科臨床サービス』これだけは知っておきたい 精神療法とカウンセリングの根本(聖和書院)、『学校教育を支える制度論』(万葉舎)など。

カウンセラーの プロフィール

Y夫の場合にあてはめて考えてみましょう。

Y夫はゲームソフトを購入しているようなので、①は確実に当てはまります。しかし、単にそれだけでしょうか？ ゲームソフトを買うことと自体にもいくつかの意味がありそうです(7月号参照)。Y夫の家は諸事情から父親が別居中で、家は母親とY夫とY夫の妹の3人でした。Y夫は「大人の事情」を察して、父親の別居について母親には何も聞きませんでした。

しかし、当然ですが、Y夫は本当は父親と一緒にいたかったのです。母親には直接不満を言えなくても、

Y夫は心の中ではしつかりと「大人の身勝手」を感じとっていました。その淋しきや、怒りをゲームで紛らしていたのです。Y夫のそんな行為の中に、②の「親に対する反抗」がかいまみえます。

では、③はどうでしょうか？

家のお金を盗ることがどうして家族の一員であることの自覚と結びついているのでしょうか？ それは「家のお金は自分のお金」というある意味で正しく、ある意味で間違った考え方から来るものです。実際、家のお金の多くは子どもを育てるために使われています。そのため、子ども自身も気付かないうちに、「自分のために使われるお金なら、自分が遣ってもいいはずだ」という考えを持つようになることがあります。

このように、家のお金を盗るといふ行為の中には、子どもが家の中の自分の存在価値を経済的な面から量るという意味も含んでいます。言いかえると、そうまでして自分の価値を確認しなければならぬほどに、家の中に自分の居場所を見つけれ

ない不安を抱えているのだといえるのです。

彼らが本当に欲しいのは、お金ではなく、お金では決して買えない別のものであります。

保護者さまへ アドバイス

結論を急がないで！

Y夫のケースでは、数回のカウンセリングの中で、Y夫のほうからお金を盗っていたことを話してくれました。

しかし、家のお金がなくなっていると、子どもを疑っていたところ、数日後に本当に空き巣だったことが判明したというケースもありますので、子どもに直接お金のことを聞いたのではなく、今回のようにゲームソフトのことや子ども自身のいつもと違う行動について聞いていくほうが良いでしょう。